

平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
たかまつミライエ5階
TEL: 087-833-2211 FAX: 087-833-2244



高松市平和記念館 開館1周年記念事業 ～写真展 戦争と海を渡った人形たち～

平成29年11月18日（土）から11月26日（日）まで、平和記念館映像学習室（たかまつミライエ5階）で、「写真展 戦争と海を渡った人形たち」を開催しました。

1927年に日米親善のために太平洋を渡った人形たちが、戦時中や戦後に歩んだ流転の歴史を、香川県親善人形の会から寄贈された写真などで紹介しました。

日本からの答礼人形「ミス・香川」の里帰りの様子、青い目の人形が香川県に寄贈された当時の写真、1998年にギュリック3世（戦前に人形交流を始めたギュリック博士の孫）から贈られた新・親善人形12体のうち、「メリー・ジェーン」と「メアリー・ルース」の2体などを展示しました。



また、たかまつ風土記「戦後50年青い目の人形を追って」（1995年制作）のDVDを、1日6回、放映しました。開催期間中は、812名もの方々にご来館いただき、心より感謝申し上げます。



● ギュリック博士

宣教師として、1888年来日。日本人移民排斥運動の問題に取り組み、排日移民法の改正運動のほか、青い目の人形12,739体を日本に贈り日米間の民間交流に尽力した。

● 新・親善人形（新・青い目の人形）

「メリー・ジェーン」（写真左）メリーランド州から高松市のぞみ幼稚園に寄贈

1998年の「ミス香川」里帰りを記念して、ギュリック3世から贈られた2体のうちのひとつ。園児たちが、高松三越でのプレデビュー展示や高松空港での「ミス香川」のお迎え会などで活躍したので贈られた。

「メアリー・ルース」（写真右）メリーランド州から丸亀市立岡田小学校に寄贈

1992年、岡田小の6年生が、岡田小にも戦前に「青い目の人形」が来ていたことを知り、追跡調査をしてギュリック3世に報告したところ、「なくなった人形の代わりに、かわいがってください。」と贈られた。

写真展 戦争と海を渡った人形たち



アンケートにご協力いただきありがとうございました。

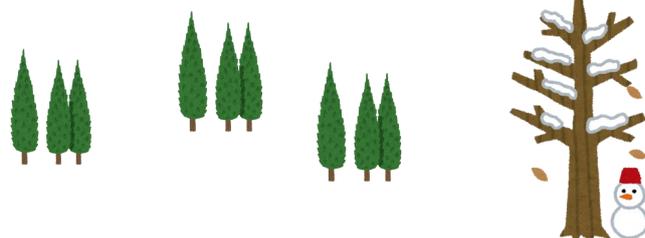


私は、この間、こちらの平和記念館に来ました。平和学習で、高松空襲のことを知りました。私もし空襲の体験をしていたら、今の人たちにこのつらいこと、悲しいことを伝えたいです。

私のひいおばあちゃんは103歳なのですが、私に戦争、そして空襲のことを教えてくれました。ひいおばあちゃんの話聞いて、胸がとても痛くなりました。

もっと詳しく戦争や、空襲のことを知って絶対に戦争はしたくないと思いました。

(10歳代・小学生女兒)



今から90年前に、日米間で、平和のために人形を通じての親善活動が行われていました。



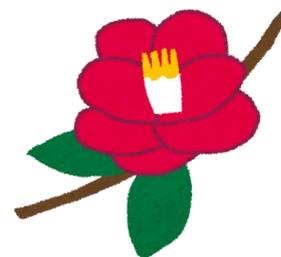
答礼人形「ミス香川」などは、アメリカで戦時中も大切にされていたものが多くありました。これらの人形たちは、戦後、再び日米親善と平和を語る資料として大切に保存されています。両国の間では戦争という不幸な歴史がありましたが、残された人形たちを通じて交流を深めてきました。



来館者の中には、初日からこの展示を目的に来館された方や、「青い目の人形や答礼人形のこと全く知らなかったが、今回この催しに来て分かってよかった。」と言われる方もいました。



また、1927年の親善人形やミス香川、そして新・親善人形にも、パスポートが発行され、着替えなどもいっしょにそろっていることにびっくりされていました。



高松市戦争遺品等収蔵品巡回展《庵治町》

平成29年11月1日(水)から7日(水)日まで、庵治コミュニティセンターで戦争遺品等収蔵品巡回展を開催しました。庵治町での開催は7年ぶりでした。



庵治地区文化祭開催中の展示であったこともあり、多くの皆様に見学いただきました。開催準備中には、戦争遺品寄贈者の方とお会いし、新たに数点の遺品を寄贈いただいたほか、当時のお話を聞くこともできました。

焦土と化した高松のパネルをご覧になった方からは、「戦争はもう二度といやだ。」といった声が数多く聞こえてきました。

また、庵治こども園の園児たちも、引率の先生から、防空壕の写真、焼け野原となった高松の昔と今の写真、若い人たちが戦争中に工場で働かなくてはならなかったこと、紙で作られた将棋盤や囲碁盤などの説明に、真剣に耳を傾けていました。

焼夷弾が空から落ちてくることを聞いた園児からは、「こわい!」という声ももれていました。



高松市平和記念館では、市内や近隣市町の小学校4年生を対象に、こども未来館学習の一環として平和学習を行っています。

児童のなかには、学習後に「また来ました。」と再度来館される方もおられ、理解を深められています。

※ 高松市平和記念館 ご利用案内 ※

開館時間：9：00～17：00

休館日：毎週火曜日、年末年始

入館料：無料

資料貸出：DVD・VHS及び遺品等一部の資料の貸出しを行っています。

詳細は当館までお問い合わせください。

お問い合わせ先：高松市平和記念館 TEL：(087)833-2211

戦時用語解説55

灯火管制(とうかかんせい)

灯火管制は防空法（1937年公布）で規定され、すべての灯火を消滅あるいは遮へいすることにより、来襲してくる敵機の攻撃目標を惑わそうとするものであった。

太平洋戦争がはじまり空襲の危険度が高くなるにつれて、灯火管制用電球や電灯カバーなどが考案され、各家庭にそれらの設置が厳しく指導された。

戦争末期、アメリカの飛行機が毎日のように本土上空に出没するようになると、灯火管制規則に優先する措置として、1944年12月29日に灯火管制強化要綱が閣議決定され、「夜22時以降は警報の有無に限らず、警戒管制の程度に光を隠すようにするとともに、就寝時には必ず消灯するよう」常に暗闇の生活が強調された。

※ 出典 「戦前・戦中」用語ものしり物語 北村 恒信 著



灯火管制下の一家の夕食光景

收藏品紹介56 軍票(ぐんぴょう)《最近の收藏品より》

提供者 小豆島町 浅栴 由美子 様

軍票とは、正しくは軍用手票といい、軍隊がその占領地において食糧や軍需品の調達などに使用する特殊紙幣のことである。東南アジア地域の軍票は現地通貨（被占領国が使用の通常紙幣）で発行され、中国の軍票には本国通貨（占領国の通貨・つまり円）が表示された。東南アジア地域で発行された軍票は、現地で親しめるようにフィリピンではペソ、ビルマではルピーの通貨単位を印刷していた。

しかし、軍票が使われた国々ではかなりのインフレを引き起こして物価高となり、住民の生活を苦しめた。そして、最後には紙くず同然となった。

寄贈者の父親は、中国大陆から東南アジア各地を転戦し、ビルマの密林の中では大型アリやバナナなどを食べ、飢えをしのいだそうである。



編集メモ

「たかまつミライエ」内に、平和記念館がオープンして1周年を迎えました。

平和イベント（戦争写真展、遺品展など）を開催するたびに、「後世に語り継ぐべきもの」とのお声を来館者の方よりたくさんいただきます。これからも戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、平和意識の普及・啓発を図るため、努力してまいります。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>